花卉園芸学研究室レポート

花漬けの日々

千葉大学大学院園芸学研究科　花卉園芸学研究室　博士前期課程2年
小　川　優　理　子

私は昨年、他大学を卒業し、この千葉大学大学院の花卉研へと進学してきました。現在の花卉研での植物に囲まれた生活は新鮮で刺激を受ける毎日です。その一部をご紹介致します。

実学主義～栽培してみて学ぶこと～

千葉大の花卉研に入って最初に学ぶのは『栽培』。4月から通い始め、5月の中旬には研究室で管理している温室1棟の管理を任されました。まずは毎日の灌水です。以前の大学でも、当番で灌水を行っていたので灌水なんて簡単だろうと思っていましたが、とんでもない。植物の求めるように灌水をするというのは非常に難しいのです。農学部で4年間を終えてきたというプライドを捨て灌水について学び直しです。ただ毎日水をあげればいいというわけではなく、その日の天候や植物の状態にあった灌水をしなければいけません。絶妙なタイミング・量が求められ、『水やり3年』とよく言われるように灌水は奥が深いのです。しかし3年たったら私の場合留年になってしまうので修士の2年間でなんとかマスターしたいと思っています。

さらに栽培は灌水だけではなく、施肥や薬散もしなければなりません。もちろんそのときの植物の症状にあった肥料や薬を与える必要があります。動くことも話すこともできない植物にとっては管理者だけが頼りであり、そんな植物のちょっとしたサインを管理者は見逃してはいけないのだと学びました。以前は『灌水なんて日替わりの当番制で良いのでは？』と思っていましたが、今では管理している植物の状態を毎日自分の目で確認しないと心配になります。当たり前のことばかりですが、多くの植物を実際に栽培することで気付かされることが多く、現在も日々、勉強と発見の連続です。

体力勝負～男女関係なくパワフルな学生達～

花卉研では週2回温室内と圃場で作業をしています。温室内では研究室で管理している株のピンチや鉢上げなどの手入れや温室修理などを行います。先日は温室の天井部のビニールの張替えを行いました。普通は温室に登るなんて危ないからと業者に頼むのだと思いますが、『これも研究の一環だ』と教え込まれた学生達は作業を一日でやり終えるのです。

圃場での作業は草刈や穴掘り、木を切ったりと体力のいる仕事ばかりです。草刈も刈払い機などを使いこなし、汗や草、泥まみれになって作業を行っています。もちろん鎌の使い方も上達するので『鎌の使い方上手くなったので鎌で草刈したいです』なんて学生もいて頼もしいです。現在の花卉研は以前に比べ女子学生が多いのですが、男子学生に負けず劣らずこのような力仕事をなんなくこなしています。

日々の学生生活～研究はもちろん私生活も、花～

現在の花卉研ではペチュニアやサクラに加えフロックスやオステオスペルマムといった花卉研の研究としては扱ったことのない植物の研究をしている学生がいます。このように学生が異なる植物に触れ情報交換することでより新しい発見があったり、自分の実験に生かすことができたりするのです。前例のない研究・栽培に日々悩まされている学生ですが、今後の花卉研学生のための基礎作りのためにもと研究に熱心に取り組んでいます。

また、花卉研恒例の1000属検定にも賢明に取り組んでいます。植物の名前を覚え始めたら目につく植物が何なのかが気になるようになります。以前は何気なく通っていた道も植物を意識するだけで景色が変わるのです。物事に対する意識や姿勢次第で学ぶことはたくさんあるのだと学びました。

このように花卉研の学生は学内だけでなく私生活でも植物に目がいってしまう花・植物にどっぷり漬かった日々を送っています。